

まいづる
元氣人

やりがいのある活動

舞鶴母子福祉会について申し上げますと、最も大切な活動は、母子家庭の「日常生活支援」です。これは保健所の窓口で登録された家庭で、母親が仕事や病気のために子どもの世話ができないときに、母親に代わって子どもを預かる事業で、子育て支援の免許を持った会員が行います。とてもやりがいのある活動です。

また、母親の就労支援活動として、パソコン教室の開催や資格取得のためのアドバンスなどをしています。子ども達には「居場所づくり(30分)に「関連記事」」。これは、ひとり家庭にこもらず、みんなで勉強したり語り合ったりする環境を作ること、心や学習をサポートするものです。その他にも、「バス旅行」「料理教室」「体操教室」「クリスマス会」など、多くの親子同士の楽しい交流行事を行っています。

活動にかかわるきっかけ

私は夫を結婚5年目のとき病気で亡くしました。そのとき、子どもは1歳と4歳。

苦勞と思わずに 笑顔で「何か」に変える力

舞鶴母子福祉会 会長 常塚 朋子(ともこ)さん

母子家庭の母親と子どもの両方を支援する活動をしている「舞鶴母子福祉会」。いつも優しい笑顔で元気に活動されている常塚さんは、会長として18年間、会を引っ張っておられます。母子家庭のサポートを続けるに至った原動力や活動に込めた思いなどを伺いました。

悲しんで途方にくれましたが、子ども達をなんとか育てなければと思い、気持ちを立て直しました。そんなときに、母子福祉会のバス旅行のことを知り、子どもを連れて参加しました。同じような境遇の参加者同士ですので、すぐに打ち解け、思いを分かち合う仲間ができたと感じ、前向きになりました。これがきっかけですね。

数年後には、会の役員をするようになっていました。そして、京都府が実施する女性リーダーを育成する事業「京都府女性の船」に参加させていただき、その後、会を任されるようになりました。ここまでやってこれたのは、私が「ひとり親」の大変さや苦勞を知っている、子育て中の若いお母さんの力になりたいという思いがあるからでしょうね。

母親同士 子ども同士がつながる

年間を通して、いろいろな行事をしていますが、初めて会った母親同士、そして子ども同士はすぐに仲良くなります。それは、やはり似たような思いや苦勞をしているからでしょうか。行事が終わってか

らも、連絡を取り合ったり、相談し合ったりされているようです。また、子ども達も一緒にやって行事を準備するようになると、積極的に行動するようになり、成長していく姿が見られてうれしく感じています。

伝えたいこと

子ども達は「宝」です。仕事をしながらお母さんひとりで子育てをすることは大変なことですが、母子福祉会としても、いろいろな形でお手伝いができたらいいなと思っています。気楽にいろいろな相談してもらいたいですし、一生懸命頑張つて欲しいなと思います。「苦勞」を「苦勞」と思わずに笑顔で「何か」に変える力を持つてほしい。そのためには家にこもらず、積極的に外へ出てほしいですね。

私自身も、多くの人と関わりながら、ここまで頑張つてきました。いろいろな行事を行っている、ひとりでも多くの人に参加してもらい、素敵な笑顔と仲間を作ってもらいたいと思います。自分のためだけでなく、子どものためにも。

まいづる
花図鑑

vol. 118

本州から九州の日当たりの良い山地に生える高さ3〜6mの落葉小高木。新枝は赤みを帯び、葉は楕円形で互生し先は尖る。初夏、前年枝の葉腋から花柄を伸ばし、たくさんの壺状の白花を下向きにつける。

名前の由来は、成長すると幹がねじれることから。材は堅く緻密なのでくしや細工物に利用される。

有毒植物でウシやヤギなどが葉を食べると中毒を起し死ぬこともあるため注意が必要。

【協力】瓜生勝朗
市文化財保護委員(植物分野)



ネジキ (ツツジ科)

見ごろ 5~6月頃

